

「～大学生で就農～柑橘への思いを形に」



児玉 壱茶 (24 歳) 新規学卒
(宇和島市)

1 就農の動機・理由

祖父母が柑橘農家を営む家系に生まれた
が、農業をするつもりはなかった。農
業 ICT の研究がしたくて大学に進学した
が、進学当時はコロナで学校にもあまり
通えず、空き時間に祖父母の手伝いをし
ていた。手伝いを通して柑橘栽培の楽し
さ・やりがいを感じ、そのまま大学3年
生で就農。現在は卒業し、柑橘の専業農
家。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和4年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人) 祖父 祖母	男1人(本人) 正規1人 パート2人
経営耕地	樹園地 30a	樹園地 148a	樹園地 160a
経営内容	温州みかん 30a	温州みかん 95a ポンカン 30a はるか 4a タロコ 4a 河内晩柑 14a	温州みかん 95a ポンカン 42a はるか 4a タロコ 4a 河内晩柑 14a

○農業用施設
農業用倉庫

2棟

○主要農業機械

軽トラック 2台
モノラック 4台
動力噴霧器 6台
灌水ポンプ 3台
草刈機 6台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県宇和島市吉田町

職歴 なし

就農研修歴

愛媛大学農学部

(R2.4.1～R6.3.31)

就農年月 令和4年12月

(2) 就農時の思い

自分の作業に応じて品質や収量が変
化することに楽しみを抱きつつ、不安
もあった。また、物価高騰での資材
費・人件費の値上がりや、上下のある
販売価格から収入の安定性は不安材料
だった。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

大学での講義で理論的な部分は学び
つつ、現場では祖父から学びながら栽
培を行っていた。

(2) 資金の準備

特になし

(3) 農地・住宅の確保

最初は祖父母の農地を一部継承・経営分離をして就農。4年計画で毎年少しずつ農地の所有権移転を行い、就農4年目には祖父から全園地を継承し、経営統合。現在は第三者から園地を借りることで面積を増やしている。

就農や農地の所有権移転・賃貸借については、南予地方局や農業委員会に相談した。

(4) その他苦労したこと

就農時に提出した「青年等就農計画」の作成に苦労した。南予地方局や宇和島市役所にも相談に乗っていただきながら作成した。

5 農業経営の特徴

高品質・高収量を実現するためには栽培にもお金がかかる。既存のJA出荷依存の経営ではリスクがあると感じ、個人での販売や卸・小売業者への直接取引も拡大している。また、とにかく畑に行く回数を増やし、現場の状況から自身の作業のフィードバックを得ている。

6 これからの夢

倉庫の増設・正規雇用を雇うこと。働きやすい環境を整えるためには、畑での作業のしやすさも重要になると感じている。基盤整備を行い、園内道の確保や樹間を広くとった栽培スタイルにも切り替え中。また、人材育成にも必要性を感じており、食育や農業を知ってもらえる機会を増やしている。

7 成功したキーポイント

祖父の代で導入していただいた、個人スプリンクラー設備の恩恵が大きいと感じている。ほぼ全ての畑にクーラーが

導入されており、防除や灌水の簡易化に役立っている。特に高温・乾燥が問題となっている現代では、灌水や液肥の導入が必要不可欠であり、ありがたみを感じている。

8 就農を目指す方へのアドバイス

自身が目指したい農業・経営スタイルをあらかじめ決めておくことが重要だと感じている。また、とにかく畑に出向いて、日々の変化を感じ取ることも大事だと思う。

○ 指導機関からのひとこと

大学在籍中に農業経営を開始する等新たな就農形態（学業と農業の二刀流）の先駆者となっています。

当初より、農業経営がPDCAサイクルでマネジメントされており、規模拡大や設備投資を進めながら、着実に農業収入の増加を達成しています。

また、今年度は「えひめ農林水産アンバサダー」に就任され、農業の魅力発信に貢献されています。

今後、地域を担う人材として成長され、柑橘産地の維持・発展に尽力されることを期待しています。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室
電話番号 (0895) 28-6117



ダンプ・バックホウでの基盤整備